

29C-03

内臓脂肪型肥満と漢方医学的所見との関連性

諏訪中央病院東洋医学センター¹⁾，富山医薬大医学部和漢診療学²⁾，土佐クリニック³⁾

○引網宏彰¹⁾，長坂和彦¹⁾，巽 武司²⁾，土佐寛順³⁾

【目的】近年高血圧症・糖尿病・高脂血症等のいわゆる“生活習慣病”と肥満との関連についての研究が進み，特に内臓脂肪型肥満が皮下脂肪型肥満に比べ疾患の発症に有意に関連していることが明らかとされ，疾患予備軍としての内臓脂肪型肥満者に対する対応が注目されている。先に我々は人間ドック受診者を対象に漢方医学的所見と検診検査項目との相関について報告してきたが，今回漢方医学的所見と内臓脂肪型肥満の関連性について検討したところ，若干の知見を得たので報告する。

【対象と方法】対象は諏訪中央病院に1997年1月から1998年4月までに人間ドックを受け，腹部超音波検査が施行された209例（平均年齢 51.0±10.3歳，男性165例，女性44例）。Body mass index (BMI) を肥満の指標，腹部超音波検査から求めたAbdominal fat index (AFI) を内臓脂肪型肥満の指標として，脈候（浮沈，数遅，虚実，大小，緊緩，滑波），舌候（舌色，舌形，苔色，苔質），腹候（腹力，腹直筋，心下痞，胸脇苦満，心下悸，臍上悸，臍下悸，臍傍圧痛，回盲部圧痛，S状部圧痛，小腹不仁，正中芯，胃部振水音）との関連性について検討した。また寺澤の気血水診断基準より求めた気虚・気逆・気鬱・血虚・水滯・瘀血の各スコアとの関連性についても検討した。

【結果】1) 脈候：実脈ではBMI，AFIともに有意に高値を示した。大脈ではAFIのみが有意に高値を示した。2) 舌候：BMIとはいずれも相関はなかったが，AFIは舌紫暗色と膩苔では有意に高く，瘦薄舌では有意に低値を示した。3) 腹候：BMI・AFIともに腹力・回盲部圧痛と正，心下悸・臍上悸・臍下悸・小腹不仁・胃部振水音と負の相関関係があった。右胸脇苦満と臍傍下圧痛がAFIのみと正の相関関係を示した。4) BMIは気鬱・水滯と正，気虚と負の相関関係があった。AFIは瘀血と正，気逆と負の相関関係を示した。また，AFIによって皮下脂肪型肥満と内臓脂肪型肥満に分類すると瘀血スコアのみが内臓脂肪型肥満で有意に高値を示した。

【考察】BMIを指標とした肥満者には漢方医学的に実証で気鬱・水滯を有することが多かったが，“生活習慣病”発症予備軍として考えられる内臓脂肪型肥満者には特に脈が大で，舌候・腹候および気血水スコアから瘀血病態との関連性が強く認められた。このことはいわゆる“未病”としての瘀血病態の是正の必要性を示唆する結果と考えられた。